

怒涛

題字 藤 禄 郎 氏
近藤 禄郎

立 年 号
創 十 周 集
百 特 集 号

柏中柏高同窓会新聞
発行代表者 土田新吾
印刷所 印刷所
（株）柏崎インサツ

11月6日(土)

記念式典・祝賀会

柏崎高等学校 創立百十周年

創立百十周年を迎え、校記念事業委員会も十一回開かれ、着々と準備を進めているところです。

十一月六日(土)に記念式典(母校体育館)と記念祝賀会(市産業文化会館)を開催します。記念誌『回顧百十周年』を平成二十三年三月刊行予定で準備を進めています。(二口五千円以上の寄付された方には全員贈呈、募金委員会では、魅力ある学校教育への助力などを趣旨として、事業基金二十万円を目標に募金活動を行っています。

事業委員会は、会長土田新吾(高16)、同窓会長、募金委員長石黒信行(高2)、同副会長、副委員長に相澤陽一(高8)、奨学会会長、青木健P T A会長、浅野隆校長の各氏のほか、各卒業期から募金委員を選出していきます。

記念式典では、午前十時四十分から宮脇昭氏(横浜国立大学名誉教授)の記念講演「明日のために……生物社会の捉え方」があります。

予備がまだありますので事務局までお申し込みいただければ、送料別途四千四百円でお届けいたします。

式典委員会

委員長 吉田 弘

日 時
平成二十二年
十一月六日(土)
式典 九時四十五分
開会

祝賀会委員会

委員長 青木 健

期 日
平成二十二年
十一月六日(土)
午後二時

記念講演委員会

代表 相澤陽一

記念講演は植生の世界的権威
宮脇昭氏です

世界各地を飛び回って植生調査を行うと共に、その土地の植生をふまえて三千万本の植樹をしてきた理論と実践の人、それが宮脇昭先生です。豊富な実践と自らの理論に基づき、情熱的に語る宮脇さんの話は、単なる学術的な講演の域を超え、聴く人々に面白さと感動を与えます。さらに、植物世界のいきりを通して私たちの生き方にも多くの

記念誌委員会

委員長 根立俊樹

買求め下さい
前売り券の販売は八月以降、各期の幹事を通じて行う予定です。
同窓会事務局へ直接申お渡します

当委員会では、昨年六月の発足以来、篠原真同窓会副会長(高14)を委員長、学校側の岩崎智男教諭を副委員長として、記念誌の全体構想をまとめ、概略を本紙のページに掲載していただき

し込む場合はハガキでお願いたします。(その場合は、当日受付で料金と引き換えにチケットをお渡しします)

本年四月からは、副委員長が交代して、新任の小山よしみ教諭(高40)となり、同教諭とともに検討を重ねた結果、このほど各項目ごとのページ割りと担当者の細案ができています。

働きかけはまた始まったばかりで、同窓会各地支部の活動状況をはじめ、「選抜出場」や「ときめき国体」さらには「中越沖地震」など、関係者への寄稿あるいは適任者の推薦



を、ぜひともお願いしたいというのが現状です。
なお、記念誌の刊行予定は年度末(平成二十三年三月)ですが、印刷・製本の都合を考え、式典当日以外の記事は、八月末日をしめ切りといたしました。お含みの上、皆様の積極的な協力をお願い申し上げます。

記念式典までいよいよあと数ヶ月。実行委員皆様の努力の甲斐もあって準備は着々と整いつつあります。具体的な事業については、それぞれの委員長様から進行状況等について報告がありますが、皆様方の一層のご協力ご支援をお願い申し上げます。大変な不況の中、心身ともに萎えてしまった観のある日本の現状ですが、我、柏崎高等学校の最近の活躍ぶりは、そんな不安を払拭する力強さがある。



輝け柏崎高等学校

実行委員長 土田新吾(高16)

平成二十一年度、進学率は県内第一位となったようです。この十年間、確実に実力をつけてきました。初の甲子園出場や新潟国体の水球部の活躍等文武両道において目ざましいものがあります。我、柏崎高等学校の最近の活躍ぶりは、そんな不安を払拭する力強さがある。

即ち新戸部稲造が『武士道』を日本において発刊した年です。前年にアメリカに贈り愛読をすすめたばかりでなく、海軍兵学

校や陸軍士官学校の生徒たちにも読むようすすめたという事です。『武士道』がこれほどまでに評価されたのは特権階級の守るべき道徳律が昇華されて日本人の普遍的道徳観となつたこと、そしてその道徳観が世界に通用する品格の高いものであることを明らかにしたから

我が校の文武両道の精神

宮脇昭博士のプロフィール



横浜国立大学 名誉教授
(財)国際生態学センター所長
NPO地球の緑を育てる会 顧問

経歴

- 1928年生まれ
- 1952年 広島文理科大学生物学科卒業
- 1961年 理学博士号取得
- 1990年 1990年度朝日賞受賞
- 1992年 紫綬褒章受賞
- 1993年 横浜国立大学名誉教授
- 同年10月 (財)国際生態学センター所長就任
- 1995年 ドイツ・チュクセン賞受賞
- 1997年 国際植生学会 世界初の名誉会員に
- 2000年 勲二等瑞宝章受賞

著書

- 『森よ生き返れ』(大日本図書)
- 『鎮守の森』(新潮社)
- 『緑環境と植生学』(NTT出版)
- 『日本植生誌(全10巻)』(至文堂)など多数。

■宮脇方式

広島文理大学時代の雑草学の研究がドイツのチュクセン教授の目にとまり、ドイツに渡って、同氏より「顕在するものに潜む潜在自然植生」を学ぶ。帰国後、現場第一主義に徹して日本全土を隈なく調査し、日本植生誌10巻にまとめる。その後、企業、学校、団体等と提携し、市民も参加しての緑化運動は、国内およびマレーシア、ブラジル、中国など1600カ所に及ぶ。

■理 論

土地の「主役」の木を選定し、三役、五役となる複数の樹木を混植・密植することで、自然淘汰、共存共栄して、管理を必要としない森が形成される。関東周辺では、明治神宮などの鎮守の森に見られるように、シイ、タブ、アシ、クス等の常緑照葉樹が主役の木。異なった樹木がそれぞれの特性を活かしながら、それぞれが少しずつ我慢をして、辛抱強く生きる姿が最高の自然環境であると提唱している。

募金委員会より 再度のお願い 募金活動苦戦!

5月末現在 600万円余

委員長 石黒信行

募金活動がスタートしてから約1ヶ月半が経過いたしました。諸般の事情により募金活動が苦戦を強いられる事はある程度覚悟はいたしておりましたが、いささか予想を上回る低調ぶりである事をご報告をせねばなりません。5月20日現在、募金者数786名、金額で6,170,055円であり、目標金額2,000万円から見ますと達成率30%と云う所であり、以前の様に一部の方の多額な寄付を希むべくもありません。「一口の応募をより多くの先輩達が後輩の為に参加して

いただきたい。この様な時であるからこそ、柏崎の人材育成の手助けをお願いしたい」との思いで募金委員一同、募金活動を行ってまいります。経費縮減の点から以前の様に、個々の会員の皆様に再度のお願いは出来ません。宜しくお願いいたします。尚、振込用紙を紛失された方は同窓会事務局TEL 0257 (35) 7839 FAX 0257 (35) 7838もしくは柏崎高校TEL 0257 (22) 4195までご連絡いただければ振込用紙を送らせていただきます。

運営費納入のお知らせ
本同窓会の会計年度は7月1日から翌年の6月30日までです。今年度も納付書を同封いたしましたのでよろしくお願いいたします。同総会活動の円滑な運営のため、今後ともご協力をお願いいたします。

運営費納入状況 (平成21年7月1日~平成22年6月7日)

卒業回(卒業年/月)	件数	納入額	卒業回(卒業年/月)	件数	納入額
旧職員	1	2,000	16回(昭和39/3)	60	120,000
【旧制中学校】			17回(昭和40/3)	60	120,000
19回(大正12/3)	1	2,000	18回(昭和41/3)	81	162,000
20回(大正13/3)	0	0	19回(昭和42/3)	54	108,000
21回(大正14/3)	0	0	20回(昭和43/3)	70	140,000
22回(大正15/3)	1	2,000	21回(昭和44/3)	49	98,000
23回(昭和2/3)	0	0	22回(昭和45/3)	57	114,000
24回(昭和3/3)	0	0	23回(昭和46/3)	46	92,000
25回(昭和4/3)	0	0	24回(昭和47/3)	40	80,000
26回(昭和5/3)	0	0	25回(昭和48/3)	43	88,000
27回(昭和6/3)	1	2,000	26回(昭和49/3)	26	54,000
28回(昭和7/3)	3	6,000	27回(昭和50/3)	54	110,000
29回(昭和8/3)	2	4,000	28回(昭和51/3)	44	88,000
30回(昭和9/3)	3	6,000	29回(昭和52/3)	38	76,000
31回(昭和10/3)	1	2,000	30回(昭和53/3)	40	80,000
32回(昭和11/9)	1	2,000	31回(昭和54/3)	30	60,000
33回(昭和12/3)	2	4,000	32回(昭和55/3)	16	32,000
34回(昭和13/3)	2	4,000	33回(昭和56/3)	18	36,000
35回(昭和14/3)	9	18,000	34回(昭和57/3)	13	26,000
36回(昭和15/3)	9	18,000	35回(昭和58/3)	17	34,000
37回(昭和16/3)	8	16,000	36回(昭和59/3)	21	42,000
38回(昭和17/3)	8	16,000	37回(昭和60/3)	19	28,000
39回(昭和18/3)	15	30,000	38回(昭和61/3)	22	46,000
40回(昭和19/3)	20	40,000	39回(昭和62/3)	17	34,000
41回(昭和20/3)	26	52,000	40回(昭和63/3)	10	20,000
42回(昭和20/3)	31	62,000	41回(平成元/3)	18	36,000
43回(昭和21/3)	9	18,000	42回(平成2/3)	14	28,000
44回(昭和22/3)	29	58,000	43回(平成3/3)	25	50,000
45回(昭和23/3)	19	38,000	44回(平成4/3)	12	24,000
46回(昭和24/3)	2	4,000	45回(平成5/3)	14	28,000
【高等学校】			46回(平成6/3)	14	28,000
1回(昭和24/3)	10	20,000	47回(平成7/3)	19	38,000
2回(昭和25/3)	29	58,000	48回(平成8/3)	11	22,000
3回(昭和26/3)	33	66,000	49回(平成9/3)	9	18,000
4回(昭和27/3)	61	122,000	50回(平成10/3)	8	16,000
5回(昭和28/3)	51	102,000	51回(平成11/3)	11	22,000
6回(昭和29/3)	68	138,000	52回(平成12/3)	2	4,000
7回(昭和30/3)	61	122,000	53回(平成13/3)	9	18,000
8回(昭和31/3)	63	126,000	54回(平成14/3)	12	24,000
9回(昭和32/3)	55	110,000	55回(平成15/3)	12	24,000
10回(昭和33/3)	60	120,000	56回(平成16/3)	14	28,000
11回(昭和34/3)	69	138,000	57回(平成17/3)	14	28,000
12回(昭和35/3)	53	103,000	58回(平成18/3)	13	26,000
13回(昭和36/3)	51	102,000	59回(平成19/3)	27	54,000
14回(昭和37/3)	59	118,000	60回(平成20/3)	37	74,000
15回(昭和38/3)	46	92,000	61回(平成21/3)	63	126,000
計	2,275	4,560,000			

二、三年前でしたか、堀江謙一さんという冒険家が、波の力で進む船でハワイ日本間約七〇〇〇kmの航海に挑戦するといふことができ、驚かされた。実は今回が二度目で、今回の船は最新のハイテク機器やGPSも搭載していたりスポンサーもあり、余り驚かないのですけれども、この同じ人が約五〇年前に一人で、太平洋横断の冒険に出たのであります。当時二二歳。九日間かけて兵庫県西宮から米国サンフランシスコまで、悪天候と体力の消耗と孤独と戦い、命がけの船旅に成功したのであります。この実話をもとにした映画が『太平洋ひとりぼっち』(一九六三年制



作、堀江謙一原作、市川崑監督、石原裕次郎主演「これぞ何ともし難い」のであります。(この映画そのものは、密出国を扱っているそのまますが、人には推奨はできませんが。)

石原裕次郎の『太平洋ひとりぼっち』から

石原裕次郎自身はこの航海の無謀さを戒めていたが、『この国の将来のために、強い生きたかな若者たちを一体どう提示しているのではありませんか』のヒントになるのではないかと考えます。

石原裕次郎といえども、今、蔓延している時代の閉塞感、一六〇〇年前にペリー提督の艦隊(黒船)が浦賀沖に現れた時代と酷似しているように思える。若い人にはぜひ自分の眼で自分の方眼で世界に飛び出して欲しいと考えます。ちょうど

ど万延元年(一五〇〇年)に、勝麟太郎や福澤諭吉やジョン万次郎が成臨丸で太平洋を大風に見舞われながらも横断したことがながらも横断したことが頭を過ぎるし、「軽い」言葉が目立つ。この政治動が期待するより、現在の若い人たちに期待したいわけだ。『平和』と

校長 浅野 隆

可を与える。②一人旅に限る。③自己責任で行って帰ってくる。④国は地域・遠近を問わない。⑤最大一ヶ月以内とし授業に懸かる分は普通欠席扱いである。⑥単なるストレス発散や気分転換のためには日本を脱出したければ

不可とする。⑦このプロジェクトを企画・構想してみましたが、こんな風に「〇〇会」から(一〇〇万円を二〇年間無利子で)貸与する……等々

な視野を持てるなど教育的な意義があることから、積極的に推進を図っている。『外務省の「二一世紀東アジア青少年大交流計画」による「日中二一世紀交流事業」および「日韓中高校生交流事業」を活用し、高校生を中心に、韓国等への派遣や海外からの訪問団の受け入れを進めたい」とし、特にアジア諸国へ生徒の積極的な参加をお願いしたいと明言しています。校長としてもう少しこの企画をあたためてみたいと思っております。

国際交流については、新潟県教委も『生徒が早期から海外を経験することで見聞を広め、国際的

事務局よりお願い

- 会員の「住所変更・訂正」「物故」の連絡は、①郵便 ②ファックス ③Eメールでお願いたします。
- 正確を期すため、④電話での連絡はできるだけ避けてください。
- 特に、「物故」の連絡は、必ず①②③でお願いたします。

連絡先	① 郵便宛先	〒 945-0065 柏崎市学校町4-1 県立柏崎高等学校 柏中・柏高同窓会 事務局
	② ファックス	0257(35)7838
	③ Eメール	dotoh@kzh.biglobe.ne.jp
	④ 電話	0257(35)7839

▼会員の皆さまのご協力とご支援をいただき、母校百十周年記念の同窓会員名簿を発行することができました。誠に、ありがとうございました。▼名簿は、追加注文を受けるなど、好評を得ている一方で、体裁や内容についてのご意見もいくつかいただいております。▼また、私たちの手違いで、生存者を物故者として掲載するという、大変な間違いがありましたこと、該当者の方には謹んでお詫び申し上げます。▼今回の反省を踏まえ、より正確な情報を載せる工夫を重ねて次回の発刊に備えようと思っております。ひき続き、皆さまのご協力とご支援をお願いいたします。

名簿の発刊、その後